

■登場人物(2022年上演時)

荻野彩(21)・・・主人公、荻野家の次女でキャバクラ嬢
荻野久美子(48)・・・彩・唯の母、海難事故で夫を亡くす
みどり(源氏名)(21)・・・彩のキャバクラの同僚だが、実は・・・
荻野唯(25)・・・彩の姉、荻野家の長女、海岸清掃のボランティアを運営
有紗(源氏名)(20)・・・彩のキャバクラの同僚、おしゃべりでお調子者
宮本千尋(25)・・・友達思いで時におせっかいな唯の親友
吉岡佳音(28)・・・ボランティアの一員、明るくて社交的
渡辺双葉(24)・・・ボランティアの一員、ドライでサバサバ、男っぽい性格
杉山まどか(29)・・・ボランティアの一員、看護師を休職中、繊細
有田桃香(22)・・・ボランティアの一員、思い込みが激しい、いじられ役
堀口菜々(46)・・・荻野家の隣人、姑に怯える教育ママ
堀口莉々(17)・・・荻野家の隣人、天真爛漫な受験生

※唯・吉岡・双葉・菜々・莉々のうち、数キャラが男性あり ver.には男性になる可能性があります

※各 ver.の登場人物はこの中から 8 人で物語を構成し、3ver.同じ物語ながら登場人物が異なる内容になる予定です。

第1場

場面は荻野家の大広間。佳音、双葉、まどか、桃香が座る。

桃香　じゃあ、吉岡さんは、海が好きだから、このボランテアやってるんですか？

佳音　ええ。私、サーフィンのショップに勤めてるんですけど、当然サーファーのお客さんがたくさん来るんですね。それで、話してたらわかるんですけど、みんな自然に対する意識が、意外と低いんだなあって思ったのがきっかけなんです。

桃香　へえ。

佳音　海は、私たち人間が利用させてもらっている大切な天然資源だと思うんです。その天然資源を汚すことは、やっぱり罪なことだと思ってまして。実際、持ち込んだゴミや食べかすを放置して帰るサーファーもいっぱいいて。疑問を感じているときに、荻野さんに誘ってもらったって言いますか。

桃香　荻野さん。

佳音　リーダーの荻野さん。

桃香　ああ、荻野さん。

佳音　荻野さんについてやってみたら、これは面白い！って思って、続けてるんです。

桃香　そうだったんですね。…渡辺さんは？

双葉　私は…アスリートの活躍とか？

桃香　アスリート？

双葉　ええ。オリンピックとかで、選手たち、言うじゃないですか。応援してくれる皆さんのために戦いました！って。…

桃香　私には国を背負う事なんてできませんけど、私も誰かのために何かできないかなって思ってたんです。へえ。

双葉　私、タバコ吸うんですけど、以前はポイ捨てしたり、鉄格子の蓋がついてる下水のたまり場。あそこをゴミ箱代わりにポイって、よく捨ててたんです。でも、そのゴミが川へ流れ、海へ流れ、海岸を汚していると知った時に…ああ、自分はダメだなんて反省しまして。

桃香　へえ。

双葉　それで私も、何か社会の役に立つことをと思って、参加したんです。

桃香　そうなんですか。杉山さんは？

まどか　私も似たようなものです。社会貢献したいと思ひまして。

桃香　そうですか。なるほど。

佳音　どうしてそんなことを？

桃香　え？

佳音　いや、どうしてそんなこと、聞くのになって思ったりして。

桃香　お給料、もらえるわけじゃないのに、どうしてこういった活動してるんだろうって、気になるじゃないですか。それに、みなさん、平日仕事されてる。本来なら休みたいはずの休日に、どうしてこういった活動されてるんだろうって

思ひまして。

佳音　まあ、夏だけですし、私たちもずっとやってるわけじゃないんです。

桃香　でも、今年の夏は、この活動に捧げるってさっきおっしゃってましたし。どうして無償の奉仕を好んでされるのかな

って思っただんです。

双葉　じゃあ、有田さんは？

桃香　え？

双葉　有田さんはどうして、応募してきてくれたんですか？

桃香　私の事はいじやないですか。

双葉　みんな話したんだから、教えてくださいよ。

私、中卒で、専門学校中退して、バイトしても全然続かなくて、何がしたいのかわからないんです。だから、何か見つけようと思っで。人の役に立つことをやりたいって思っで。だから、このボランティアの運営に関わりたっで思っただんです。

∴。

桃香　（涙ぐんで）すみません。

佳音　嬉しいで。

桃香　∴。

佳音　嬉しい。ねえ？

双葉
…。

まどか
…。

佳音
人の役に立ちたい。もしかしたら、そんな思いが、これからの社会を作っていくかもしれませんね。

桃香
…。

佳音
これからは、人と人がもう一歩ずつ歩み寄る時代になる。荻野さんの口癖ですが、自分より、他人を優先する。一見

よくわからないこの理屈も、他人の喜びを目の当たりにしたとき、180度変わる。

双葉
人の喜びは力になる。…自分は人の役に立っている、そう思えることが、どれだけ大切なことか。…自分への自信…

この活動を経て、日常に戻った時、自分に対する自分の思いが大きく変わる。…だから、有田さんもうちで活動すること、自分も出来るんだ！っていう自信を、持つことができるようになるといいですね。

桃香
私！一生懸命頑張ります！よろしくお願いします！

佳音
よろしくお願いします。

双葉
よろしくお願いします。

まどか
よろしくお願いします。

千尋が奥から登場。

千尋
…。

佳音
ああ。…どうでした？

千尋
…（首を振る）

佳音
そうですか。

桃香
こちらは？

佳音
荻野さんのお友達の千尋さん。

千尋
はじめまして。

桃香
有田桃香と申します。よろしくお願いします。

千尋
宮本千尋です。頭を上げてください。

桃香
いえ。

千尋
私は、メンバーじゃありません。

桃香 （頭を上げて）…そうなんですか。でも、Ｔシャツ…。

千尋 荻野の母が入院してしまって、荻野が仕事もボランティアも忙しいものですから、お手伝いをしているんです。そうなんですか。…お母様、お体悪いんですね？

千尋 2週間ぐらい前に入院してまして、まだ退院できてないんです。私も聞いたときは驚いたんですけど、疲れがたまってたみたいで。

桃香 …。

千尋 でも、もうすぐ退院できるみたいです。落ち着くまで、しばらくここにいます予定ですよ。

桃香 そうなんですね。

双葉 ご飯、掃除、洗濯、全部やって、すごいですね。

まどか 私たちも助かってます。花火、軍手、全部買ってきていただいて、ありがとうございます。

桃香 でも、お友達で、そこまでやるなんて。

千尋 荻野とは子供のころからの腐れ縁なんです。家も近所ですし。お母さんのことを考えると、いてもたってもいられないよ。

双葉 本当、助かります。

千尋 色々不手際もあるとは思いますが。

桃香 いえ。…よろしく願います。

千尋 よろしく願います。

佳音 それで。…やっぱり連絡ないんですか？

千尋 …（うなづいて）何回もラインしてるんですけど、返信が…。

佳音 そうですか。まあ、仕方ないですよ。綾さんも、まだ遊びたい年頃でしょうし。

双葉 でも、千尋さんは、お母さんが入院されてから綾さんのお世話もしてるわけですし、寂しいですよ。

千尋 私は単純に、唯が残念がるだろうなって思って、それが辛いって言いますか。それに（仏壇を見て）。

全員 …。

千尋 お父さんは、綾ちゃんにも参加してほしいって思ってる。いつも唯が言ってます。

佳音 去年もそんなやりとり、ありましたね。

千尋 だから、今期最初の今日は、絶対参加するように言ってたんですけど。

全員 …。

桃香 綾さんって？

まどか 荻野さんの妹さん。

佳音 まあ、そのことについては追々。…とりあえず今日一日、流れを覚えてもらって、また話していきますよ。

桃香 ……そうですか。

リンリン。唯が登場。

唯 ごめん！土曜日なのに、会社に呼び出されちゃって！

佳音 お帰りなさい。

唯 今年一回目なのに、本当ごめん。

佳音 大丈夫です。全部やっておきました。

唯 本当ごめん。…千尋も、本当助かる。

千尋 ううん。

唯 本当ありがとう。…（桃香を見て）有田、桃香さん？

桃香 はい。

佳音 簡単に流れは説明しておきました。

唯 ……（うなづいて）。

桃香 ……

唯 荻野です。ようこそ。お越しいただきました。

桃香 ……（一礼）。

唯 この「ちばの海を守る会」は、毎年夏に、勝浦の海岸を清掃しています。私たちは、海岸を綺麗にすることはもちろんですが、一番の目的は、陸地で捨てられたごみが、川を通じて海へ流れついて、海岸を汚しているということに、たくさんの人に気づいてもらうことだと思っています。そのためには、参加してくださる方が楽しく、思い出になるような一日を作ることが大切です。

桃香 ……

唯 だから、楽しんでやる。そのことを心に留めておいてくださいね。

桃香 わかりました。

唯 よろしく。
桃香 よろしくお願いします。
唯 じゃあ、着替えてくる。ちよっと待ってて。
佳音 わかりました。
千尋 唯。
唯 ?
千尋 ちよっと。
唯 …。

唯、千尋、退場。

桃香 私、勘違いしました。
3人 …。

桃香 ここに来るにあたって、自分なりに使命感を持ってきたつもりだったんです。海岸を綺麗にするぞって。でも、楽しい一日を作る。そうすることで、参加者の方に、この活動の本当の意味…陸で捨てたゴミが海岸を汚している、ってことを覚えておいてもらえる。だから、花火をしたりするんですね！
佳音 そう。

桃香 思い出に残る一日を作る。それが、私の役割！…頑張ります！

佳音 よろしくね。

桃香 …（一礼）。

唯、登場。千尋も登場。唯、仏壇に手を合わせて。

唯 お父さん。行ってきます。

全員 …。

唯 今日はどんな感じ？

まどか 今日は16名の一般参加の方がいらっしゃいます。

全員 …。

まどか 今日清掃するのは、守谷海水浴場。JR上総興津（かずさおきつ）駅の駅前ロータリーに13時集合です。今から向かって、一般参加の方を待ちましょう。名簿は私が持っています。

全員 （口々に）はい。

まどか 海水浴場は、駅から徒歩10分。全員集合したら、私と荻野さんと渡辺さんで先導します。一般参加の方がはぐれないように、吉岡さんと有田さんで、後ろを歩いてあげてください。

全員 （口々に）はい。

まどか 終了予定は十六時。かなり気温が高くなることが予想されます。まずは各自の暑さ対策。あと、一般参加の方がバテてないか、気を使ってあげてください。

全員 （口々に）はい。

まどか 海水浴や楽しんでいる方の邪魔にならないように。また、参加者が水の事故に巻き込まれてないか、海水浴客とトラブルを起こしていないか、そのあたりも注意して、何かあった場合は私が吉岡さんに伝えてください。

全員 （口々に）はい。

まどか 以上です。

唯 じゃあ、本日よろしく願いいたします。

全員 よろしくお願いします。

佳音 じゃあ、倉庫に荷物を取りに行きましょう。

桃香 倉庫？

佳音 庭の倉庫に、道具一式置いてるんです。

桃香 そうなんですね。はい。手伝います。

全員、退場。波の音。時間経過。綾が登場。明らかに酔っぱらっている様子。壁にもたれかかって。

綾 飲みすぎたぜ。

綾、中に入ってくる。

綾 ああ。頭痛いよお。ガンガンするよお。…痛いよお。…痛いよお。

綾、一旦退場して、ペットボトルのお茶を飲む。ペットボトルを放って。

綾 冷えてないよお。全然冷えてない。…暑いよお。…暑いよお。

カバンから小型扇風機を取り出して。

綾 はあ。

綾、落ち着てくると。

綾 …（扇風機に口を近づけて）我々は宇宙人だ。（と適当に続ける、そして）…あ！

扇風機のスイッチを切って、雑に置く。綾、手を合わせて。

綾 お父さん。ただいま。今日も一日無事に過ごせました。健康で過ごせました。今日もありがとうございました。私は…寝ます！

綾、寝転がる。起き上がって。頭を押さえて。

綾 健康じゃないか。頭ガンガンする。

綾、再び、寝転がる。すると、声が聞こえてくる。佳音、桃香、双葉、まどか、千尋の順番で登場。5人、綾を見る。綾も起き上がって見る。桃香以外のメンバーは、ああ、といった表情。

桃香 （小声で）どなたですか？

佳音 (小声で) 荻野さんの妹さん。

桃香 (小声で) ああ。…なんか。…超、お酒臭いですね。

佳音・まどか・双葉 (小声で) あ—————!!

桃香 (小声で) え?

綾 さてと。(立ち上がろうとすると)

千尋 ちよっと。(綾の前に出る。)

綾 …(立ち止まる)。

千尋 綾ちゃん。今、何時だと思ってんの。

綾 …。

千尋 どこ行ってたの。

綾 どこでもいいでしょ。

千尋 よくない。今日は、今期最初の土曜日だよ。

綾 …。

千尋 どこ行ってたの?

唯が登場。

唯 どうしたの?

全員 …。

唯 (綾を見て、ため息ついて) …本当に、あんたは。

綾 …。

佳音 …じゃあ、私たち、先行ってますね。

双葉 そうですね。行きましょう。

まどか …(うんうんうなづいて)。

双葉 行きましょう。

桃香 え?

4人、退場していく。リンリン。

唯 千尋も行つてて。

千尋 でも。

唯 いいから。

千尋 うん。

千尋、退場。リンリン。

唯 あれだけ参加するように言ったのに。お母さん入院してるっていうのに。

...

唯 何回も言うけど、私はこの「ちばの海を守る会」をもっと広めたいと思ってる。

...

唯 お父さんが始めたこの海岸の清掃は、きっと社会のお手本になる。これから、誰かのために社会のためになって、お互いが一歩ずつ歩み寄る精神が、人の幸せにつながっていく時代になる。お父さんは、未来の先駆けだった。私はそう思ってる。

...

唯 お父さんは、私たち家族が一丸となって取り組むことを、きっと望んでる。自分が始めたことが、娘に伝わって、他の人に伝わって、長く続いていくんだから。お父さんにとって、こんな嬉しいことないでしょ？

...

唯 だから綾も、お父さんに対する恩返し of 気持ちで、しっかり取り組まないといけないんじゃないの？もう二十歳になったんだし。

...

唯 だから、行こう。

...

唯 行こうよ。

...

第2場

唯、立ち上がって。

唯 本当にあんたにはがっかりした。高校の時は遊びまわってたけど、大人になったらちゃんとしてくれるもんだって思った。でも、もういいよ。好きにすれば。お酒も飲みたかったら、飲んだらいいよ。…でもね。あんたのそんな姿を見て、お父さん、何て言ってるかな。

綾 唯 お父さん、悲しませないでほしいよ。もう、子供じゃないんだから。（退場しようとする）
綾 唯 うるさいよ。

（立ち止まって）？

綾 唯 うるさいよ。なんでお姉ちゃんにそんなこと言われないといけないの？…私、海、嫌いなんだよ。暑いし。汗かくし。たつくし。ドロドロになるし。なんで私が海岸の清掃やんないといけないって決まってるの？勝手に決めないでよ。…あと。（立ち上がって）お父さん持ち出して言うのやめてよ。お父さんの事、お姉ちゃんに言われると、腹立つんだよ。自分だけがいい子みたいなの。お父さんは自分の味方みたいなの。そんな言い方されたら、本当腹立つんだよ。…。
綾 唯 私、絶対に行かないから。

綾、退場。

唯 …（ため息）。

波の音。唯、退場していく。リンリン。

場面転換。菜々と莉々が登場し、仏壇の前に座る。菜々は手を合わせる。6人、ゴミをもって登場。

菜々 莉々！あんたも、ご挨拶しなさい！

莉々 うるさいなあ。

菜々 ほら！

莉々 …。

莉々、仏壇に手を合わせる。

桃香 (小声で) どなたですか？

佳音 (小声で) お隣さん。

桃香 (小声で) へえ。いろんな方がここにいらっしやるんですね。

佳音 (小声で) しー。

菜々 今日からなんですよね！…海岸の清掃。

唯 そうですね。

菜々 素晴らしいですね。

唯 ありがとうございます。

菜々 私も、そんな素敵なご家庭を隣人に持ったことを誇りに思っております。

唯 ありがとうございます。

菜々 …。

唯 ご存知かとは思いますが。うちの莉々。受験生なんです。

菜々 …。

唯 もうすぐ夏休みです。夏休みは重要な時期です。しかも。…莉々の成績、上り調子なんです。今が大切なんです。わ

菜々 かりますか？

唯 ええ。

菜々 (唯をじっと見て、莉々の方を向いて) …ほら。あんたも何か言いなさい。

莉々 何で私が言わないといけないの。

菜々 自分のことなんだから、自分の口から言いなさいよ。

莉々 ごちゃごちゃ言ってるのは、お母さんでしょ。お母さんが言いなよ。

菜々 ああ。

しばらく間。

菜々 夏休みは、受験生にとって、とても重要な時期なんです。

6人 ……

菜々 英単語・英熟語・古文・漢文・日本史・生物。覚える教科がたくさんあります。…いや、私は受験なんてものをしておりません。二十歳でこの子を産みました。だから詳しいことはわかりません。ですが！…姑が、敏感になっておりまして。

6人 ……

菜々 そんなこともあって、ここに参った次第なんですが…おたくの清掃！

6人 ……

菜々 ゴミをいつもここに持ち帰っておられます。

唯 そうですね。

菜々

昨年もお伝えいたしました。姑が敏感になってたものですから。…何うと、清掃で出たゴミは役所では引き取ってもらえず、家庭ごみとして出すほかないとのことでした。…いや、お姉さんがお父様のご意思を継いでらっしゃることは重々承知です。私もお父様には生前大変お世話になりました。そんなお隣さんを誇りに思います。ですが！…姑が！敏感になっております！私への愚痴が！増えてきております！お隣さんどうなってるの？お隣さんどうなってるの？愚痴が増えております！

6人 ……

菜々 姑が敏感になっております！敏感になっております！何卒、ゴミを保管されませんよう！

6人 ……

菜々 莉々！あんたも！

莉々 （嫌々）よろしくお願いいたします。

唯 （頭を下げて）申し訳ありません。
菜々 莉々。行くよ。
莉々 ……（ため息）。
唯 お見送りします。
菜々 お気遣いなく。
唯 いえ。

菜々、莉々、立ち上がって退場。リンリン。唯、千尋、退場。リンリン。

4人 ……（それぞれ、ため息）。
佳音 初日から、言われるとはね。
双葉 うん。
桃香 あれはやっぱり、持ち帰らないといけないものなんですね。
佳音 神奈川は海岸清掃の財団やNPOがあつて、私たちのようなボランティアのゴミ処理の窓口になってくれるんですけど、千葉はないんです。
双葉 役所には掛け合ってるんですけど、いつも面倒くさがられて、考えておきますの一点張り。
桃香 こんな素敵なことをやっているのに。
双葉 やっぱり、私たちのような考え方が、一般的にはまだ浸透していないということですね。
桃香 なんか、歯がゆいですね。…さっき、お隣さんが、家庭ごみとして出すっておっしゃってましたけど、もしかして、運ぶのは…
佳音 全部、荻野さんが…。
桃香 ええ。
佳音 しかも、毎日ごみの日じゃないですからね。燃えるごみは火曜日まで。ビン・缶は水曜。ペットボトルは、週によっては一週間置いておかないといけないんです。
双葉 夏場は匂いも出ますし、虫も寄ってくるし、大変ですよね。
桃香 そりゃあ、何か言われるわけですよね。

リンリン。唯と千尋が戻ってくる。

唯 お疲れさま。

全員 （口々に）おつかれさまです。

唯、ゴミを見つめて。

佳音 どうします？

唯 うん。

佳音 一応、ビン・缶・ペットボトルは全部洗いましたけど。

唯 …。

佳音 去年も言われましたしね。

唯 でも、手はないんだよね。

全員 …。

唯 ちよつと考える。処理のしようもないし、他に置き場所もないし。…お隣さんには謝っておくから、みんなは気にしないで。

千尋 ゴミ出しは、私も手伝うし。

佳音 ありがとうございます。

唯 じゃあ、明日の予定は？

まどか 明日も12時に。明日は、20名の一般参加の方がいらっしゃいます。

全員 （口々に）おお。

唯 じゃあ、また明日。おつかれさまでした。

全員 （口々に）おつかれさまでした。

佳音・まどか・双葉・桃香が退場していく。

千尋 困ったね。

唯 うん。

千尋 せっかく今期が始まったというのに。

唯 うん。でも、これを持ち越えないと、このボランティアを広めていくことはできない。

千尋 …。

唯 何か考えるから、気にしないで。

千尋 私も手伝うから、無理しないで。

唯 ありがとう。

そこに、久美子がそろっと登場する。

久美子 ごめんね。

唯・千尋 ? (見て)

久美子 今日からだというのに、一緒にいてあげられなくて。堀口さんには、私の方からも謝っておくから。

唯 お母さん、いたの?

久美子 うん。

唯 いつ退院したの?

久美子 今日。

唯 今日?

久美子 うん。

唯 何で言ってくれなかったの?

久美子 私がいつ退院しようと、別にいいじゃない。

唯 よくないよ、そんな大切なこと。それに、車で迎えに行こうと思てたのに。何で言ってくれないの?

久美子 いいのいいの。体はとくに治ってたんだから。迎えとかね、そういうのはいいのよ。

唯 もう。

千尋 お邪魔してます。

久美子 千尋ちゃん。…ありがとう。本当助かってる。

千尋 いえ。

久美子 私がない間、色々手伝ってくれたんだってね。

千尋 いえ。どうせ家にいてもダラダラするだけだし。今日やってみて、とても楽しかったですし。…お母さんのことも心

ですの、しばらくおりますんで、何でも言ってください。

久美子 ありがとう。…じゃあ。お母さん、パート行ってくるね。

唯 パート？

千尋 今から、パート行くんですか？

久美子 うん。

唯 だめだよ、休んでなきゃ。

久美子 だって、2週間も休んだんだもん。迷惑かけられないでしょ。

唯 でも、退院してすぐなんだから。

久美子 いいのいいの。体はね。だいぶん前に治ってたのよ。

久美子、立ち上がる。

久美子 痛い痛い痛い痛い。…腰だけは、なかなか治らないね。

唯 …。

久美子 じゃあ、母さん行ってくるから。

久美子、退場しようとする。

唯 お母さん！

久美子 （立ち止まって）？

唯 もうお母さん、いいよ！私も就職したし。このボランティアも、私がやるし。家のことは、私が何とかするから。

久美子 …。

唯 もう、お母さん、十分働いたよ。お父さん、死んでから、昼も夜もずっと働いてきたんだから。

久美子 …。

唯 これからは私が働くから。だから、お母さん、パートやめて、趣味でも見つけて、ゆっくりしなよ。

久美子 ……気持ちだけ、もらっとくわ。

久美子、退場。

唯・千尋 ……

暗転。音楽。

第3場

明かりが入る。

久美子が座っている。唯・千尋・佳音・まどか・桃香・双葉が座っている。

久美子 夏の終わりの、よく晴れた日でした。週末に台風が来ましてね。あの人は、ゴミがたまってるはずって意気込んで、私と、高校生だった唯と、中学生だった綾と、4人で海岸に向かったんです。ところが、ゴミを拾い始めて30分もたたないうちに、黒い雲がみるみる空を覆って、雨が降り出しました。

全員 ……

久美子 私たちは家に戻ったけど、30分たってもあの人は帰ってこない。心配になって、私はもう一度海岸に見に行きました。そしたらあの人は、ずぶ濡れになりながら、まだ夢中でゴミを拾ってた。

全員 ……

久美子 遠くから、もう帰るように声をかけたけど、あの人は聞く耳もたない。そしたら、さらに雨が強くなって、波が大きくなって、ゴミを拾うあのの人に、大きな波が。

全員 ……

久美子 あの人は、本望だったと思う。大好きな海を守って、死んでいったんだから。でもね。海岸の清掃は、無理してやる必要はない。安全第一。海は、恐ろしいのよ。

全員、口を嚙む。唯、立ち上がって。

唯 私は、そんな父の娘に生まれたことを、誇りに思ってる。

全員

誰かのために生きていって思いを貫き通した、父の精神を受け継いでいきたい。

唯

父のことを考えると、ため息が出る。でも、父の精神は、ため生き。ため息じゃなくて、ため生き。ちばの海を守る会は、父の死を無駄にしないためにも、誰かのために生きるって精神で、これから活動していきたい。

全員

佳音

いや、でも、お父さんのことを聞くと恐れ多いっていうか。私はそこまでまっすぐに海のことを考えているわけじゃないから。むしろ、周りの人たちに対するポーズの意味合いが強い気がする。SNSでこんなことやってますって、言いたいっていうのもあるし。

唯

双葉

私はそれでいいと思う。ゴミを拾うことよりも、たくさんの人に興味を持ってもらうことが重要だから。そうですね。一人でも多くの人の意識が変われば、ゴミの量は少なくなる。海岸のゴミが、陸からやってくるということ、まずは知ってもらおう。そのために、どうするか。

唯

そう。それが、私たちの役割だと思う。

桃香

すごいです！

全員

？

桃香

佳音

桃香

千尋

桃香

何か、私、すごいところに来てしまったような気がします。…私にできるのかな？こんな私が、人の役に立てるのかな？

私には何もないんです！私には、何もない。こんな私が、人の役に立つなんて…。

だから。ここで普通に活動したら、人の役に立つことにつながるんだって。

頑張ります。…二日間、ありがとうございます。本当に貴重な二日間になりました。

おつかれさまでした。

ご飯までごちそうになっちゃって。

佳音 今年は千尋さんがいるから、心強いです。
双葉 本当。

千尋 そう言ってもらえると嬉しいです。

唯 じゃあ、来週も、12時に。

佳音 ……

まどか ……

双葉 ……

唯 有田さんも。

桃香 もちろんです。

唯 よろしく。…送っていくよ。

桃香 いや、いいですよ、そんな。それに、お酒、飲まれてるんじゃ。

唯 飲んでない。私、お酒飲めない。

桃香 そうなんですか。(立ち上がって) じゃあ…お言葉に甘えて。

唯 行こう。

桃香 はい。おつかれさまでした。

全員 (口々に) おつかれさまでした。

千尋 おつかれさまでした。

唯、退場。桃香、退場。リンリン。佳音・まどか・双葉、立ち上がる。

佳音 また来週。

千尋 おつかれさまでした。

まどか ……(一礼)。

双葉 ……(一礼)。

佳音・まどか・双葉、退場。

全員退場していく。リンリン。

千尋 今年一回目の土日が終わりましたね。

久美子 うん。

千尋 お疲れさまでした。

久美子 色々ありがとうね。千尋ちゃんだって、自分の仕事があるのに。

千尋 私は、親の自営業手伝ってるだけなんで、時間は大丈夫なんです。

久美子 …。

千尋 それよりも、お母さん、まだ退院してばかりだし。何か私にできることがあれば、なんでも言ってください。

久美子 ありがとう。

千尋 でも、初めて聞きました。お父さんのこと。

久美子 …。

千尋 いや、うわさでは聞いてたんですけど、ちゃんと聞いたのは初めてで。唯は教えてくれなかったから。

久美子 …

千尋 海を愛した、偉大な方だったんですね。

久美子 そうかもね。

千尋 それなのに。綾ちゃんは。

久美子 …。

千尋 いえ、悪く言うつもりはないんですけど。でも、こうして一家をあげて取り組んでるのに、どうして頑なに拒否するのかなって思ったりして。

久美子 あの子もね。あの人がいた頃は、毎週ゴミ拾ってたのよ。

千尋 そうなんですか。

久美子 あの子の後ろをいつも楽しそうについていきながら拾ってた。でもね。あのことがあってからね。…あのことが、あの子を変えてしまったのかもしれないね。

千尋 …。

久美子 でも、あの子ももう大人だから、あの子なりに色々考えてると思うの。だから、千尋ちゃんも優しく接してくれたら嬉しいな。

千尋 ええ。それはもう。

久美子 よろしくね。
千尋 よろしくお願いします。

リンリン。綾、登場。

綾 お母さん！
久美子 おかえり。
綾 いつ退院したの？
久美子 昨日。
綾 昨日？何で言ってくれないの？
久美子 私がいつ退院しようと、別にいいじゃない。
綾 良くないよ。迎えに行こうと思ってたのに。
久美子 迎えとかね。そういうのは、いいのよ。
綾 もう。
千尋 こんにちは。
綾 こんにちは。
千尋 どこ行ってたの？
綾 どこでもいいでしょ。
千尋 …どこでもいい。どこでもいいよ。
綾 ？
千尋 どこでもいいよ…。どこでもいい…。
久美子 お母さん、パート行ってくるから。
綾 パート？
久美子 うん。
綾 いいよ、行かなくて。
久美子 大丈夫大丈夫。体は、もうだいぶん前に治ってたのよ。

久美子、立ち上がろうとすると。

久美子 痛い痛い痛い痛い。…腰だけは、なかなか治らないね。

久美子、退場していく。

綾 送ってくよ。

久美子 いいよ。

綾、久美子、退場。

千尋 …。

千尋、退場。明かりが変わる。

第4場

次の日の夕方ごろ。インターホンの音。

千尋 はい。

千尋が登場して通り過ぎる（一旦退場）。リンリン。有紗が登場。追って、千尋が登場。

千尋 あの、間違いじゃないですか？
有紗 …。

千尋 この家には「ひめか」って名前の人はいないと思うんですけど。
有紗 いえ。間違いないです。ここです。
千尋 …。

有紗、座る。

有紗 お茶とかもらえます？ 駅から歩いてきたんで、汗かいちゃったんで、超冷たいのがいいです、キンキンに冷えたやつ。
千尋 …。

千尋、一旦退場。

有紗 …（立ち上がって、周りを見回す）。

と、スマホを取り出して、部屋の中を撮り始める。千尋、お茶をもって戻ってきて。

千尋 ちょっと！何やってるんですか！

有紗、撮り続ける。

千尋 ちょっと！やめてください！…やめてください。

千尋、有紗からスマホを奪って。

千尋 警察呼びますよ！
有紗 ちょっと！パパに買ってもらったアイフォンなんだからやめてよ！

有紗、スマホを取り返す。

千尋 パパ？

有紗 …。

千尋 パパって何ですか？

有紗 （口を押えながら）ダメダメ。私、こうやって口が軽いから友達なくすんだ。

千尋 ？

有紗 （咳払いして）ひめかさんに了解もらってますから。ひめかさんがいいって言ってますから。問題ないですから。

千尋 …。

有紗、座ってお茶を飲む。

千尋 あの。本当にこのお家で間違いないでしょうか。

有紗 …。

千尋 どこかのご家庭と間違ってるんじゃないですか？このお家にはそんな名前の方は住んでないと思うんですけど。

有紗 ここです。間違いないです。住所聞いてます。

と、スマホを見せる。千尋、見て。（住所は間違っていない様子）

千尋 どういったご用件でしょうか？

有紗 …。

千尋 いや、でも…、多分、ここではないと思うんですけどねえ。どこかと間違っているんじゃないでしょうかねえ。

有紗 お母様。腰悪いんですってね。

千尋 …。

有紗 大変ですね。お母様。

千尋 …。

有紗 まあ、その関係で、この家が今どうなってるか、見に来たってわけですけど。…写真撮らせてもらいますね。

千尋 ちよっと！

千尋、有紗を止める。

有紗 面倒くさいなあ。

千尋 何の話されてるのか、さっぱり分かりません。

有紗 …。

千尋 どうして、ここのお母さんのことを知ってるんですか？あなた、どなたですか？

有紗 だから、ひめかさんの知り合いだって言ってるじゃないですか！

千尋 だから、ひめかなんて人はいないって言ってるじゃないですか！

綾が登場。

綾 さーちゃん！

有紗 ひーちゃん。

綾 (小声で) 何でいんの？

有紗 (小声で) 来ちゃった…。

綾 (小声で) 来たらダメって言ったでしょ！

有紗 (小声で) だって、パパに写真撮ってきてって言われたんだもん。

千尋 綾ちゃん。…お知合い？

綾 そう…ですかね。あはは、あはは。

有紗 あはは、あはは。

千尋 あ、そう。

インターフォンの音。

千尋 あ。

インターフォンの音。

千尋 (綾に) 私、出るね。

千尋、退場。千尋、戻ってくる。みどりが登場。

みどり フフフフ。

有紗 みーちゃん！

綾 みーちゃん！… (小声中) 何で来んの。

みどり (小声中) 来ちゃった…。

綾 (小声中) 来たらダメって言ったでしょ！

みどり (小声中) 来ちゃった。なんか、楽しそうだし。

綾 (小声中) 楽しそう？

みどり (小声中) あ、いや、さーちゃんが、来いっていうから。

有紗 (小声中) フフフフ。

千尋 綾ちゃん。…この方も、お知り合い？

綾 そう…ですかね。あはは、あはは。

みどり あはは、あはは。

有紗 あはは、あはは。

千尋 そういうこと。

綾 …。

千尋 そう。

綾 …。

千尋 海岸の清掃来ないで、何やってるかって思ったら、こうやって友達と遊んでたんだ。

綾 …。

千尋 感心しないね。唯が知ったら、何て言うか。唯の気持ち、もうちょっと考えてあげてほしいよ。

有紗 ……なんか、怒られてる？

綾 …。

千尋 大体この前だって、大切な日だというのに、酔っぱらって帰ってきたし。…本当に綾ちゃんは、いつになったら遊びまわるの、やめてくれるのかなあ。

有紗 さつきから遊んでる遊んでるって言ってるけどさ。遊んでんじゃないんですけど！私たち、働いてるんですけど！

綾 ちよっと！

有紗 …（口をふさぐ）。

綾 （小声で）余計なこと言わないで！

有紗 （小声で）だってあの人、なんかカチンとくるんだもん。

千尋 働いてる？働いてるの？

綾 …。

千尋 綾ちゃん、働いてるの？…え？…どこで働いてるの？

綾 あ、服屋。服屋で働いてんの。

有紗 そうそう、H&Mっていう名前のキャバクラ。

綾 そうそうキャバクラ。…ちよっと！

有紗 言っちゃった。

千尋 キャバクラ？

綾 違う違う。H&M。あ、安くておしゃれな服、いっぱい売ってる。ねえ、みーちゃん。

みどり うん。ワンセット4000円で。

綾 そう。ワンセット4000円。…みーちゃん！

みどり 言っちゃった。

有紗 んふふふふ。

みどり んふふふふ。

千尋 ワンセット4000円？

綾 さーちゃん、みーちゃん、私の部屋、行こう。ね、二人とも。行こう。

綾、行こうとする。

千尋　ちよつと待ってちよつと待って！

千尋、進路をふさいで。

千尋　綾ちゃん、キャバクラで働いてんだ。

綾　…。

千尋　いつから？

有紗　一年前。

みどり　一年前。

綾　ちよつと！

千尋　どこで働いてんの？

有紗　木更津。

みどり　木更津。

綾　ちよつと！

千尋　木更津？結構距離あるよ？

有紗　帰りは送ってくれるから。

千尋　送ってくれる？

有紗　送迎してくれんの。それ専用の男の人がいて。

みどり　給料3000円引かれるのがちよつとイラつくよね。

綾　…（みどりを叩いて）。

千尋　ええ？

綾　行こう！

綾、行こうとすると、千尋、再び通せんぼ。

千尋　ちよつと待ってちよつと待って！

3人　…。

千尋　　そういうこと。

3人　　…。

千尋　　海岸の清掃、来ないで、何やってるのかって思ったら、そういうことだったんだ。

3人　　…。

千尋　　私は、キャバクラは勧めない。夜の仕事には、危険がある。ネットで見たことあるでしょ？トラブルに巻き込まれて、怖い目に遭う人もいっぱいいる。…キャバクラなんかで働いたら、ロクなことないよ。

有紗　　キャバクラなんか？キャバ嬢なめんなよ！

綾　　さーちゃん！

有紗　　だって、そんな言い方されたら、むかつくじゃん。

綾　　そうだけど。

有紗　　それに。私もひーちゃんもみーちゃんも。やりたくてやってんじゃねーよ！目的があってやってんだよ！誰のためにやってると思つて。

綾　　あー………言っちゃダメ。絶対に言っちゃダメ。

有紗　　そうだよ。ね。ごめん。私、いつもこうだから、友達なくすんだよね。でもさ、こんな風に言われたら悔しくない？

綾　　そうだけど。

有紗　　私たち、志もってキャバで働いてんのに、こんな風に言われたら。

綾　　言っちゃダメ。

みどり　　し………。

有紗　　ごめん。

千尋　　何の話してんの？

リンリン。久美子が登場。

久美子　　ただいま。

千尋　　こんにちは。

久美子　　こんにちは。…あら。お友達？

有紗　　お邪魔します。

みどり お邪魔してます。

久美子 いらっしやい。ゆっくりしてってね。

有紗 どうも。

みどり どうも。

綾 行こう。

有紗 え？

綾 私の部屋行こう。みーちゃんも。

みどり 部屋？

綾 早く！

綾、退場。有紗・みどり退場。

千尋 お母さん！ちよつといいですか？

久美子 どうしたの？

千尋 ちよつと、ちよつと！

久美子 何？

二人座って。

千尋 綾ちゃん、キャバクラで働いてんですって。

久美子 そうなんだ。

千尋 今の二人、あの子たちと一緒に働いてんですって。

久美子 そう。

千尋 どうします？

久美子 どうしますって言われても。

千尋 やめさせなくていいんですか？

久美子 …。

千尋　だって、キャバクラなんてところで働いたら、綾ちゃん…。

久美子、立ち上がって。

久美子　好きにさせてあげて。

千尋　…。

久美子、退場。

千尋　どうしよう。どうしよう。

リンリン。唯、登場。

唯　ただいま。

千尋　あ。

唯　千尋。来てたの。

千尋　ちよっとちよっとちよっとちよっと。

唯　何？

千尋　ちよっとちよっとちよっとちよっと。

唯　どうしたの？

2人、座って。

千尋　綾ちゃん。キャバクラで働いてんだって。

唯　キャバクラ？

千尋　今、ちよっと、遊んでる風の子たちが来ててね。なんか、わけわかんないこと言ってる。…とにかく、綾ちゃんと働いてんだって。

唯 そうなんだ。

千尋 もう、すごい生意気なの。イラっとくるしゃべり方だしね。あ、あと、この部屋の写真、勝手に撮ったりしたの。え？

千尋 ね、非常識でしょ？非常識じゃない？…もしかしたら、ああいう子たちとつるんでるから、綾ちゃん、おかしくなっちゃったんじゃないかなって思ったりして。だから。キャバクラ、辞めさせた方が良くない？

唯 …。

千尋 だって、キャバクラで働いたら、と、トラブルに巻き込まれる可能性がある！

唯 でも、遊んでるより、働いてる方が良いと思うけど。

千尋 良くないよ！キャバクラだよ？キャバクラって言ったら、ＩＴ社長の気を引くような仕事でしょ？隣に座ったらいくらとか、お酒ついだらお小遣いもらえて、みたいな仕事でしょ？

唯 ちよっと違うと思うけど。

千尋 ＩＴ社長に好かれるように振る舞っていくんでしょ？隣に座ってもらったらお給料増えるんだから。そしたら、ＩＴ社長が綾ちゃんに本気になったりして。そしたら、綾ちゃんもＩＴ社長に本気になったりして。…もしかしたら、そこに別のＩＴ社長がからんできて。ＩＴ社長とＩＴ社長の三角関係になったりして。ＩＴ社長、ＩＴ社長、綾ちゃん、不動産社長。不動産社長も来たりして！で、このＩＴ社長と不動産社長が喧嘩になったりして。そしたら不動産社長がゴルゴ１３みたいな雇って、綾ちゃんは俺のもんだー、ズドン、ズドンみたいなことに発展したりして。

唯 あんた、何言ってるの？

千尋 危ないよ！やめさせたほうがいいよ！

唯 大丈夫。心配しすぎだよ。

千尋 私は綾ちゃんのことを思って言ってるの！

唯 …。

千尋 私、一人っ子じゃん。だから、妹がいるの、うらやましくて…。

唯 …。

千尋 唯には幸せになってほしいけど、綾ちゃんにも、幸せになってほしくて…。

間。

唯 ありがとう。私からも言ってみる。…でも…自分のことは自分で責任を取らせる。それが私の役目だと思ってる。あの

子、もう家を出そうと思ってるし。

千尋 え？

唯 20歳になったし、その方が、あの子のためになると思うから。

千尋 そうなんだ。

唯 一人で生活したら、色んなありがたみがわかると思うし。

千尋 まあ、唯がそう考えるんだったら仕方ないけど、ちょっと寂しい気もするね。

唯 …。

千尋 でも、綾ちゃんのことを考えたら、その方がいいのかもね。

インターフォンの音。

唯 誰だろ。

唯、一旦退場。唯、戻ってくる。菜々が現れる。

菜々 どうもすみません。こんな夜分にお邪魔して。

唯 いえ。どうぞ。

菜々 すみません。

菜々、座る。

唯 この前は申し訳ありませんでした。

菜々 ああ、いえ。

唯 すぐに改善しようと思っておりますので、少々お待ちください。

菜々 いえ、すみません。

少し間。

唯 私も、このことについては、どうしようかと思っておりました。

菜々 …。

唯 (手で表して) こう、海風に乗って、堀口さんのお宅へご迷惑をおかけしていることに気が付かなかったんです。これは、私が浅はかでした。

菜々 いえ、いいんです。

唯 父がいたところは家族だけでやっておりましたので、ゴミの量も少なかったんですが、去年から、協力してくれる一般の方を募集してやってるもので、ゴミの量が増えてしまったんですね。

菜々 …。

唯 去年、堀口さんに言っていたときに、気づいたんです。ゴミが増えてしまったことで、堀口さんにご迷惑をおかけしていると。でも、私は父と違いまして、このボランティアを広めていきたいって思いを持っているものから、問題の解決が後回しになってしまっていたんですね。

菜々 いえ。

唯 置き場所の問題もありますが、大きなポリバケツをいくつも買うか、最悪うちの中で保管するか、対策は考えておりますので、少々お待ちください。

菜々 いいんです。だって、もう解決じゃないですか。

唯 え？

菜々 ありがとうございます。

唯 ？

菜々 お父様のおいが残るお家なのに、私の言葉で決断していただくなんて、本当に感謝しております。

唯 ？

菜々 これで莉々も勉強に打ち込めますし、姑も一安心したようで、こうやって感謝をお伝えに参った次第でございます。

唯 何の話、されてるんですか？

菜々 またまたあ。

唯 ？

菜々 うちとしては、臭いさえなんとかしていただければ問題ないんです。お姉さんがされている海岸の清掃については素晴

唯 ？
らしいことだと思っています。だから（立ち上がって）このあたりですか？このあたりに嚴重な保管倉庫を作られるとか？

菜々 それか、向こうの台所の下に保管される場所を作られるとか？

唯 ごめんなさい。何の話されてるかわかりません。

菜々 本当にありがとうございます。感謝いたします。

唯 堀口さん。何の話されてるんですか？

菜々 いや、だから…家をリフォームされるんじゃないあ？

唯 リフォーム？

菜々 ええ。

唯 いや、そんな予定ありませんけど。

菜々 いえ、私、そう聞きましたよ？それを聞いたとき、私の話を聞いて、お姉さんがご決断されたんだと思ったんですけど。

唯 いえ、だからうちはそんな予定ありません。

菜々 え？

唯 え？…誰がそんなことを？

菜々 誰がって、それはその、リフォームの方が。

唯 リフォームの方？

そこに綾がそろっと現れて。

綾 行ってきましたーす。

唯 ？

綾 （小声で）早く！

有紗 フッフッフ。

みどり フッフッフ。

有紗とみどりが現れて、3人通り過ぎる。

菜々 あ、ちょっと！

菜々、3人の後を追ひ、一旦退場。有紗の手を引いて戻ってくる。綾、みどりも戻ってくる。

菜々 さつきはどうも。

有紗 どうも。

菜々 こちらの。

唯 え？

綾はまずい表情。

千尋 いや、こちらはリフォームの方じゃないですよ。キャバクラ嬢です。

菜々 キャバクラ嬢？…（格好に気づいたように見て）ああ！

有紗 どうも（苦笑い）。

菜々 いや、でも、さつきあなた。リフォームの方だって。和室を洋室に建て替える大掛かりなりフォームをされるって、おっしゃいませんか？

綾 （小声で）さーちゃん！

有紗 （小声で）だって、しつこく聞いてくるんだもん。

菜々 まあ確かに、リフォームの方にしては、えっらい格好してんなって思ったんですけど。…いや、でもさつき、リフォームの方だって。

有紗 ええ。

菜々 でも、キャバクラの方なんですか？

有紗 リフォームをやってる。パパの会社を手伝いながら、キャバでも働いている、みたいな。そうなんですか？

久美子が登場。

久美子 どうしたの？

菜々 お母さん。

久美子 ああ、堀口さん。

菜々 お邪魔してます。

久美子 どうかしました？

菜々 あ、お母さま。このお宅の事なんですけど。…リフォーム、されるんですよね？

久美子 リフォーム？…いや、そんな予定はないと思いますけど。

菜々 違うんですか。

久美子 ええ。

菜々 でも、さっき、あなた。

有紗 はい。

菜々 リフォームするって。

有紗 言いました。

菜々 写真もパシャパシャ撮って。

有紗 撮りました。

菜々 あなた、リフォームの方？

有紗 も、やっていますし、キャバクラでも働いています。

菜々 ええ？

久美子 何の話してるの？

唯 綾。

唯、立ち上がって。

唯 どういうこと？

綾 あ、その。

唯 この子たち、誰なの？

綾 友達、なんだけど、何って言うか、あの。
みどり フッフッフ。
綾 あの、その。
有紗 あー！
全員 …。
有紗 超——面倒くさいね。超、面倒くさい。
全員 …。
有紗 しますします。リフォームします。ね？
綾 え？いや、ちょっと。
有紗 するよ。するする。するに決まってるじゃん。だって、ひーちゃんのママ、腰痛いって言ってんだから。
綾 さーちゃん、ちょっと！
有紗 もう無理。
全員 ？

有紗、一歩前に出て。

有紗 あたしい、ママにプレゼントするために、キャバで働いてんの。うちのママ、アメ車好きだから、買ってあげるためにキャバでお金貯めてんの。彼女と一緒にってこと。
全員 …。
みどり どうも。
有紗 それで、パパの知り合いがリフォームやってるから、私が紹介してあげたってこと。わかった？
みどり どうも。
菜々 ん？ん？どういうこと？
唯 お母さんにプレゼントするために、お金を貯めてる彼女と、綾が一緒？

全員、なんとなく綾を見る。

綾 もう！

全員 ？

綾 お金貯まってから言おうと思ってたのに。

綾、バッグから通帳を取り出して、テーブルに出す。唯、明らかに驚いた顔をする。

久美子、後ろからのぞき込む。明らかに驚いた顔をする。

唯 どうしたの、このお金。

綾 どうしたのって、貯めたんだけど。

唯 え？

綾 私がお金持ってちや悪いの？

唯 そういうわけじゃないけど。

菜々 いくらあったんですか？

綾 この和室がよくないんだよ！お母さん、立ったり座ったりするとき、いつも腰痛いって言うでしょ？ここがフローリングになったら、椅子置けるじゃん。そしたら、立ったり座ったり、楽になるじゃん。

久美子 …。

綾 それと。どうせ建て替えるんなら、お母さんの老後のことを考えて、お母さんが住みやすいように建て替えた方がいいじゃん。

久美子 …。

綾 お金は私が出すから。お母さんは、ハンコだけ押してくれたらいいから。

綾 …。
(有紗に) 最悪。

綾、退場。

有紗 ちょっと、ひーちゃん、待って！

有紗、退場。

みどり
フッフッフ。

みどり、退場。

唯
綾が、リフォーム？

菜々
いくらあつたんですか？

唯
何考えてんの？

久美子
…。

久美子、退場。

唯
お母さん！

唯、退場。

千尋
あ。

千尋、退場。

菜々
ちょっと！いくらあつたんですか！

菜々、退場。暗転。